

佐貫小性教育 「からだ・こころ・いのちの学習」 平成30年度6年生の取り組み

富津市立佐貫小学校

1. 本校の概要

富津市は、房総半島のほぼ中央部に位置しています。東京湾に面した沿岸部では、のりの養殖がさかんな地域です。学区は城下町のおもかげを残し、のどかな気候と田園風景が広がります。家庭環境は、祖父母が同居または近くにいて、サポート体制の厚い家庭が多く、落ち着いた雰囲気な地域です。

また、中学校は、本校のみ佐貫中学校へ進学する一小一中の地域です。そのため、小中連携した取り組みも多くあります。中学校入学時にスムーズに活動が開始できるよう、6年生が中学校で授業を体験する「ワンデースタディ」や、中学生と6年生と一緒に参加する講演会、小中合同の学校保健委員会などの活動があります。

2. 「からだ・こころ・いのちの学習」について

本校の性教育「からだ・こころ・いのちの学習」は、2年生・5年生で実施する「おへそのひみつ」「いのちのひみつ」の学習（講師：産婦人科看護師）と保健学習を軸に、道徳や学級活動など関連する教科で意識して取り組んでいます。

性教育は、1回の指導で定着するものではありません。何度も繰り返しスパイラルに指導していくことが大切です。そこで、3年生からの保健学習の一部に養護教諭も参加し、以前の学習を想起させながら指導をつなぐよう意識して行っています。

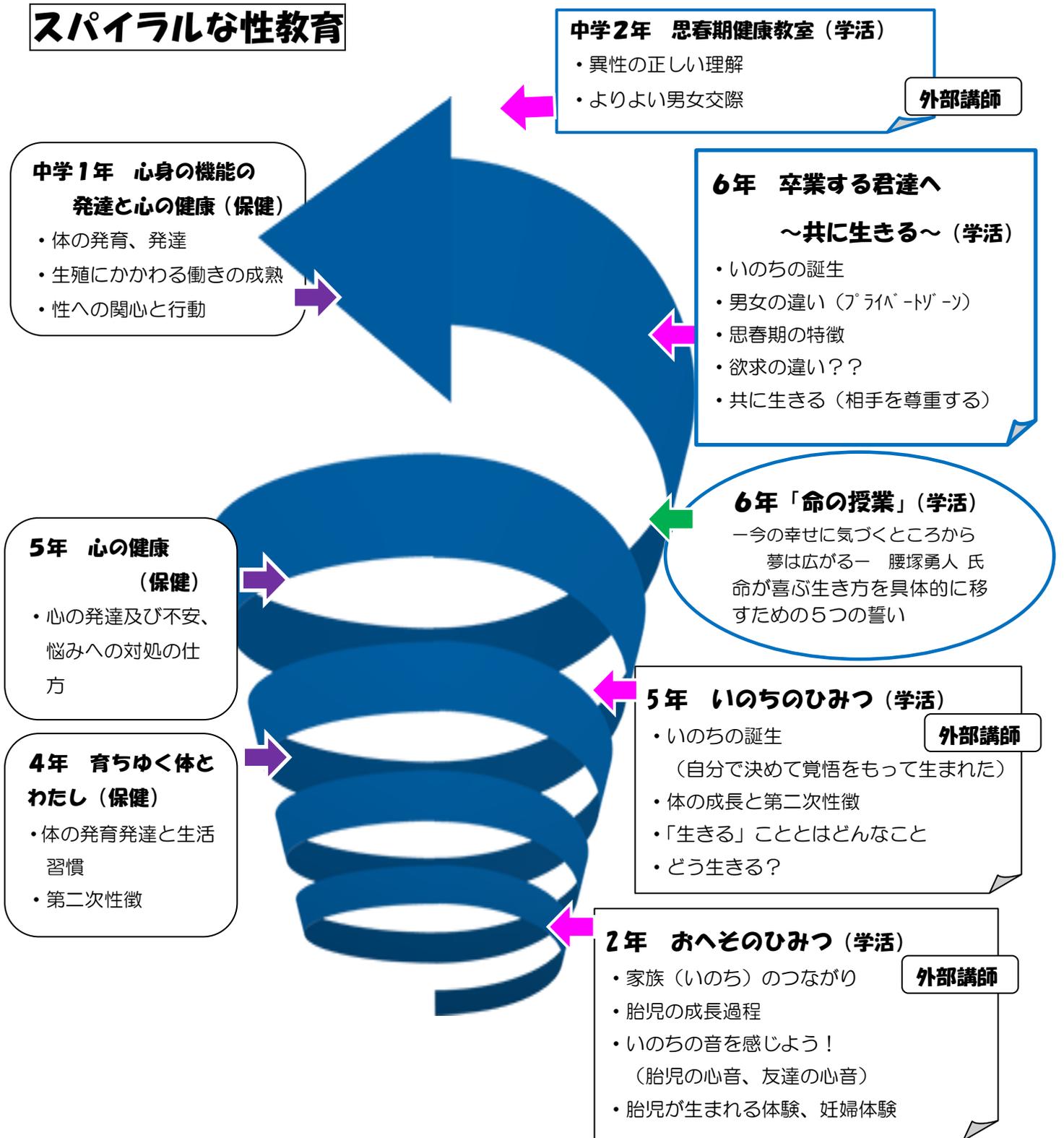
また、性教育には保護者の理解と協力が不可欠です。授業への参観を呼びかけるとともに、授業後に授業の様子や児童の感想を保護者に直接伝えたり、ほげんだよりで家庭に伝えたりしています。

さらに、中学校とも連携し、中学2年生の保健指導では小学校と同じ外部講師を招き指導をしています。生徒に「体やいのちの学習は、いつもこの先生が教えてくださる」という安心感から性教育がより身近なものに感じられるようにしています。また、養護教諭は、小・中お互いの指導を参観し合い、両校で情報や指導の共有をする中で、継続した指導ができるように取り組んでいます。

<性教育指導計画>

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
①心身の発育・発達や性に関する知識の正しい理解に基づいて、健康の大切さを深く認識し、危険（リスク）を回避するとともに、自らの健康を管理し、改善することのできる能力を育てる。	○ぎゅうにゅうのひみつ 【学活】 ○好ききらいなく食べよう 【学活】	○これまでのわたし これからのわたし 【生活】 ○わたしのものごとく 【道徳】	○毎日の生活と健康 ・健康な生活とわたし 【体育（保健）】	○育ちゆく体とわたし ・体の発育発達 ・思春期の体の変化 【体育（保健）】	○人のたんじょう 【理科】 ○心の健康 【体育（保健）】	○病気の予防 【体育（保健）】
②生命や人格の尊重、男女平等の精神の下、自己や他者を尊重する態度を育み、望ましい人間関係を築くことのできる資質や能力を育てる。	○ひろがれえがお 【生活】	○おへそのひみつ 【学活】 ○わたしの力 【道徳】 ○みんな生きている 【生活】 ○いのちがいっぱい 【道徳】	○いのちのまつり 【道徳】	○いのちの誕生 感謝の気持ちを伝えよう 【道徳】	○いのちのひみつ 【学活】 ○一枚の写真から 【道徳】	○命の授業 【学活】 ○命のメッセージ 【道徳】 ○生命と向き合う人生 【道徳】
③家庭や社会の一員としての自らの在り方を理解し、社会の現状を正しく判断し、情報などに適切に対処するとともに、よりよい家庭や社会づくりに向けて責任ある行動を実践することのできる資質や能力を育てる。	○かぞくのあたたかさ 【道徳】	○げんかんそうじ 【道徳】 ○わたしのおじいさんおばあさん 【道徳】	○わたしとお母さんとおばあちゃん 【道徳】 ○心の優先席 【道徳】	○お母さんのせいぎゅう書 【道徳】	○やってみよう 家庭の仕事 【家庭科】 ○心の管理人 【道徳】	○卒業する君達へ —共に生きる— 【学活】 ○共に生きる生活 【家庭科】

スパイラルな性教育



3. 平成30年度 6年生の取り組み（実践内容）

- ①学級目標を「絆」とし、友達、家族への感謝の心や思いやりの心が育つようアプローチしてきました。
- ②7月には、中学との連携行事の講演会「命の授業—今の幸せに気づくことから夢は広がる」（講師 腰塚 勇人 氏）に、中学生と共に小学校5・6年生が参加しました。（内容、感想は後述）
- ③3月、卒業前に、「卒業する君たちへ—共に生きる—」をテーマに、小学校のまとめの学習となる「からだ・こころ・いのちの学習」を実施しました。＜2・5年生と同じ外部講師を依頼、担任、養護教諭、保護者とともに作る授業＞（内容、感想は後述）

4. 成果と課題

<成果>

平成30年度 6年生の取り組みから

- 近年、PC・You tube・スマホ・SNSなどの普及により、その活用方法を間違ってしまうことで起こる問題が多くなっています。言葉で気持ちを伝えるより、ラインやメールというツールを優先することも多い時代の中で、人との絆、人とかがわり合って生きていくということの意味や大切さを卒業前に考えるよい機会となりました。
- 授業を実施するにあたり保護者の方々にも趣旨を説明しました。学級の殆どの保護者が参観し、保護者からのメッセージもいただきました。児童にとっては、担任、養護教諭、保護者、外部講師、それぞれの立場の方々がいづも自分たちの成長を見守っているという実感のもてるあたたかい授業となりました。
- 児童を一番近くで見守ってくれる保護者の方々と、授業の中でねらいにせまる取り組みができたことは、今後の生活の中での親子関係にも、よい影響をもたらすことを期待しています。
- 「絆」という学級目標で、「人と人とのかかわり、命、家族や人への感謝の心」の大切さを考えていくことを年間通して行ってきました。学級では、お互いを思いやる雰囲気が生まれました。学校生活の大半を共に過ごす学級担任が、性教育（からだ・こころ・いのち）をどう意識するかで、児童の意識が変わっていきます。

佐貫小性教育の取り組みから

- これまで、本校では「2・5年生で行う、外部講師による指導」と「各担任や担当による保健学習」を軸に性教育「からだ・こころ・いのちの学習」を進めてきましたが、活動が単発に終わる傾向がありました。そこで、養護教諭が保健学習の一部に参加しながら、前時までの学習を想起させたことや、性教育指導計画を教師間で再度共通理解し、道徳や他教科の関連を意識した指導をおこなったことで、学校全体でより組織的、系統的な性教育に取り組めるようになってきました。また、近年の課題に対応する内容を6年生の指導計画に組み入れたことにより、さらに充実した佐貫小性教育となりました。

<課題>

- 性教育指導計画を基本とし、教師が佐貫小性教育のどこの部分を担っているか、この授業の前の指導はどんなことで、後はどのような指導につながっていくのかという指導の継続性を意識していくことで、発達段階に応じたスパイラルな性教育が実現し、より効果的な指導が期待できます。
- 性教育は、教師の性に対する考え方が児童へ大きく影響します。時代とともに性意識も変化していく中、アンテナを高くし、正しい知識を持って、児童に公平に伝えていくことが大切です。
- 性教育の機会は、日常生活のなかにも多数存在しています。性教育指導計画を中心に、それぞれ機会を的確にとらえ「生・性」について今後も児童、教師、保護者が一緒になって取り組んでいきたいです。